

## 三宅島の火山活動解説資料（平成 20 年 8 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

多量の火山ガス放出及び火山性地震のやや多い状態が続いています。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要です。雨による泥流にも注意が必要です。

平成 20 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。火山活動はこれまでと変化はありません。

### 活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、表 1）

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上概ね 200m で推移しました。

4 日及び 19 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 1,300～1,800 トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いています。

- ・火口及び山体内の熱の状況（図 3）

地磁気連続観測<sup>1)</sup>では、短期的には火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

- 1) 山頂火口の北側（三宅島 A 点）で全磁力値が増加（図 3 で上向きの変化）、南側（三宅島 A 点以外の観測点）で減少（図 3 で下向きの変化）の変化がみられた場合は、火山体内部で温度上昇があったと考えられます。

- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 4 、表 1）

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。28 日 21 時 45 分には空振<sup>2)</sup>を伴う低周波地震<sup>3)</sup>が（波形例は図 5 参照）が発生しました。地震発生時の噴煙状況は雲のため確認できませんでした。

今期間発生した火山性地震の震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

3 日、7 日及び 8 日に振幅の小さな火山性微動が 4 回観測されました（火山性微動が観測されたのは 2006 年 11 月 29 日以来）が、これらの火山性微動の発生に関連して火山活動に特段の変化はありませんでした。

- 2) 噴火などで発生した空気の急激な圧力変化が大気中を周囲に伝わる現象。

- 3) 周期の長い波を特徴とした地震。三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した場合には、山頂火口から火山灰噴出を伴うことがあります。

- ・地殻変動の状況（図 2 - ）

GPS 連続観測によると、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続しています。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 9 月分）は平成 20 年 10 月 7 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図1 三宅島 山頂火口からの噴煙の状況（8月20日、坪田（三宅島空港）遠望カメラによる。）

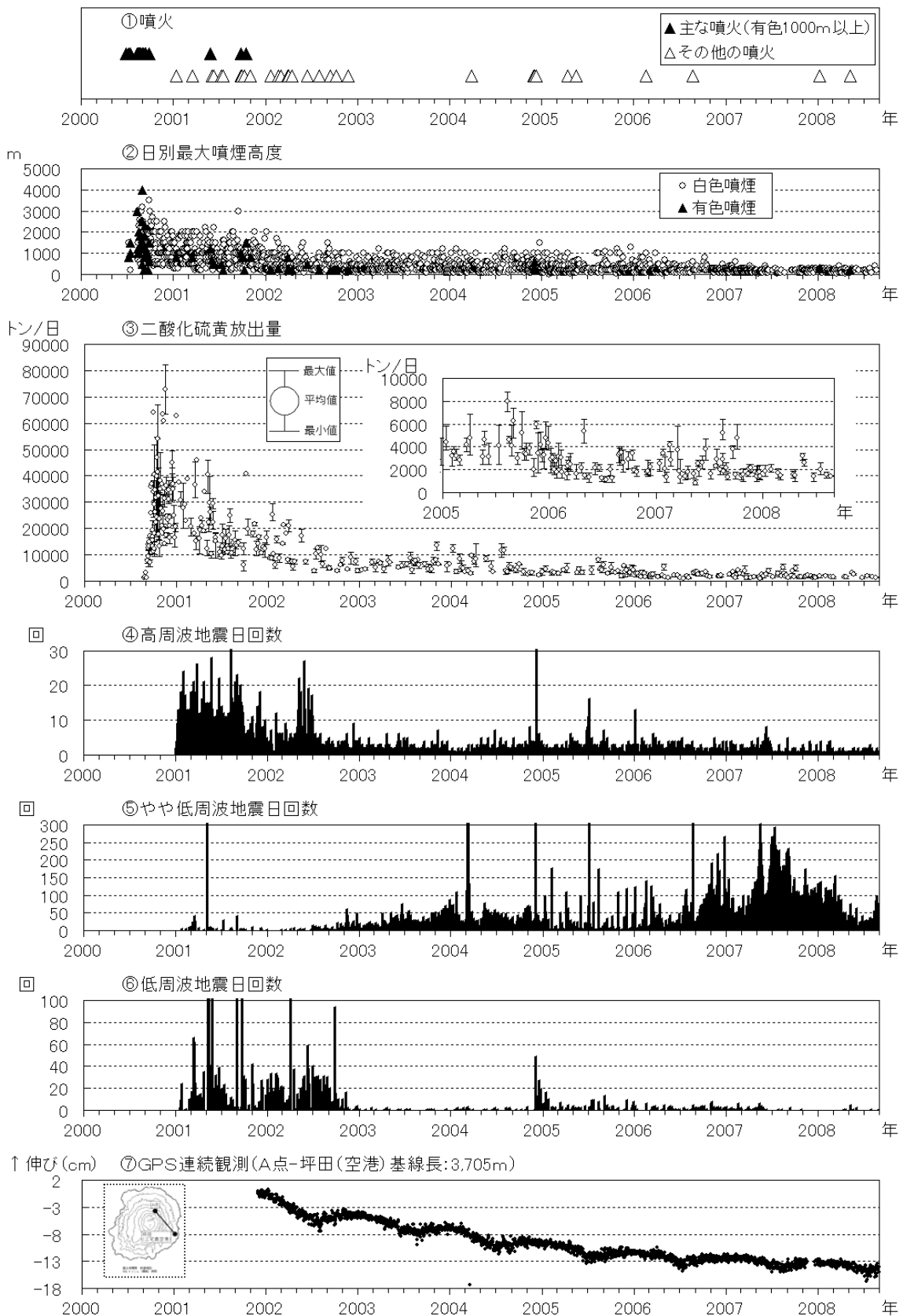


図 2 三宅島 最近の火山活動の推移（2000 年 1 月～2008 年 8 月）

は、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。

、及び は、地震の種類別（図 5 参照）に計数を開始した 2001 年 1 月 1 日からのデータを掲載しています。

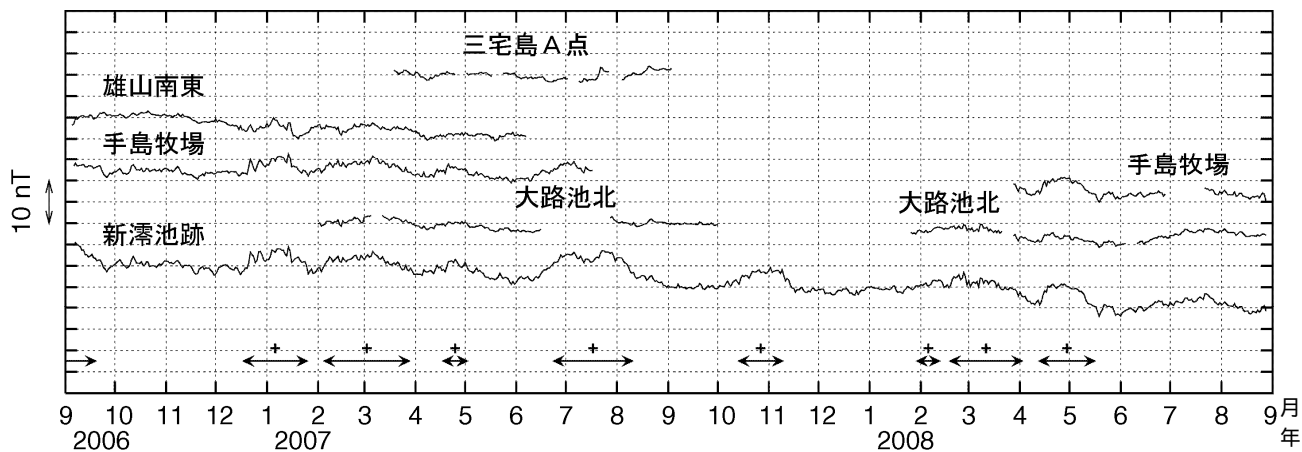


図3 三宅島 全磁力連続観測による全磁力値の変化（2006年9月～2008年8月）  
 ←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。  
 nT（ナノテスラ）は磁場の強さを表す単位です。

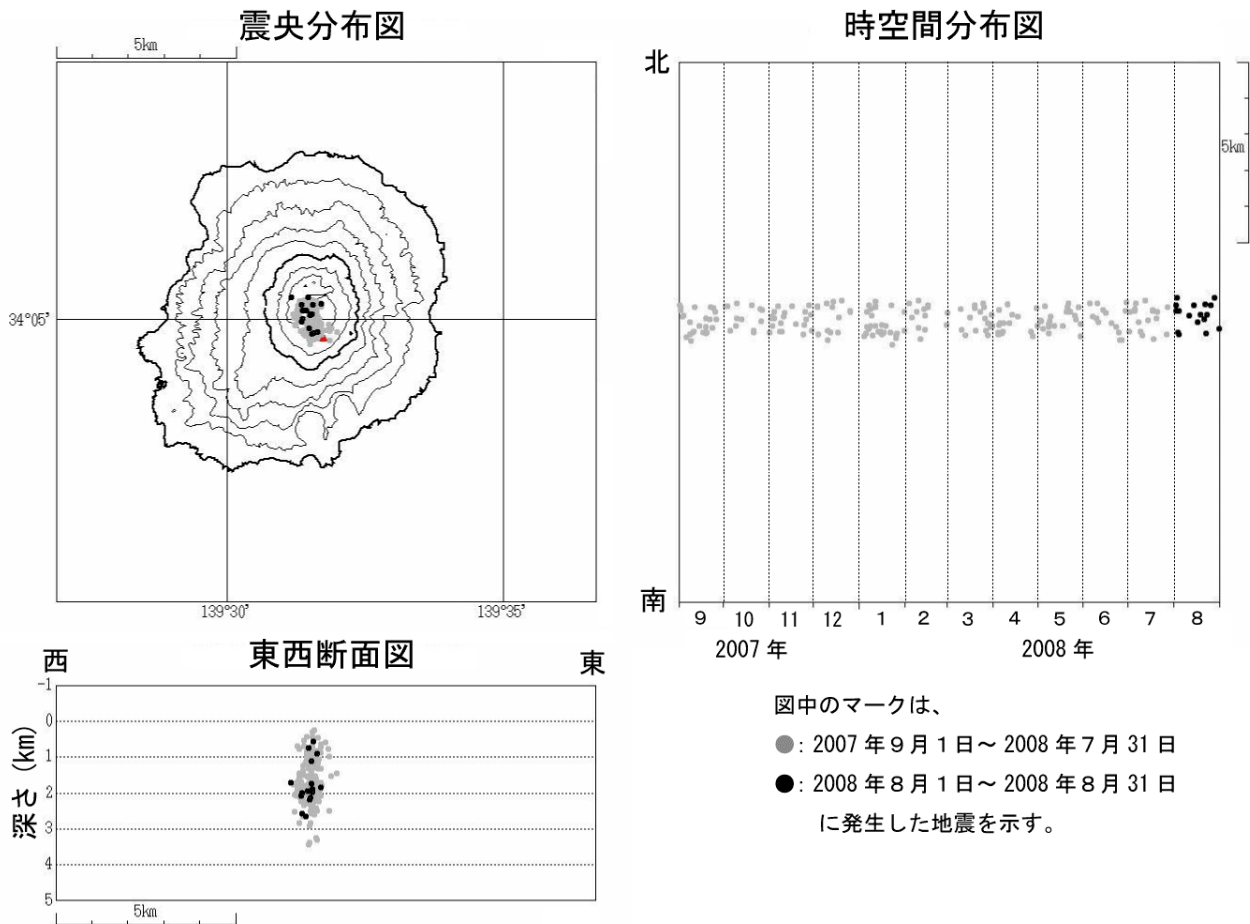


図4 三宅島 火山性地震の震源分布（2007年9月1日～2008年8月31日）

表1 三宅島 2008年8月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震回数4)			微動回数	噴煙の状況5)		備考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震(空振あり)		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	1	15	0	0	×	×	
2日	0	2	17	0	0	×	×	
3日	0	1	20	0	1	×	×	
4日	0	1	17	0	0	×	×	二酸化硫黄放出量 1,300~1,800 トン/日
5日	0	0	15	0	0	×	×	
6日	0	0	33	0	0	×	×	
7日	0	0	28	0	2	×	×	
8日	0	0	8	0	1	-	-	
9日	0	0	7	0	0	×	×	
10日	0	1	28	0	0	×	×	
11日	0	1	29	0	0	×	×	
12日	0	0	32	0	0	×	×	
13日	0	0	56	0	0	×	×	
14日	0	1	40	0	0	×	×	
15日	0	0	32	0	0	×	×	
16日	0	0	56	0	0	400	2	
17日	0	1	84	0	0	×	×	
18日	0	0	49	0	0	×	×	
19日	0	1	71	0	0	×	×	二酸化硫黄放出量 1,400~1,500 トン/日
20日	0	0	37	0	0	200	1	
21日	0	2	96	0	0	×	×	
22日	0	1	70	0	0	×	×	
23日	0	1	55	0	0	×	×	
24日	0	0	36	0	0	×	×	
25日	0	0	34	0	0	×	×	
26日	0	1	42	0	0	×	×	
27日	0	0	63	0	0	×	×	
28日	0	1	77	1(1)	0	×	×	
29日	0	0	11	0	0	×	×	
30日	0	0	10	0	0	×	×	
31日	0	0	0	0	0	×	×	
合計		16	1168	1(1)	4			

4) 火山性地震の計数基準はA点で最大振幅 8 μm/s 以上、S-P 時間 3 秒以内です。  
火山性地震の種類は以下のとおりです。

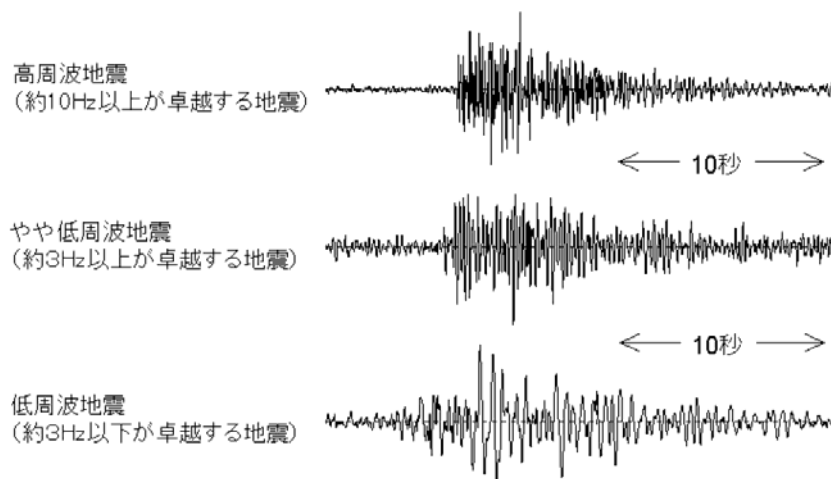


図5 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

5) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。  
1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量  
7: 噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの  
- : 噴煙なし x : 不明

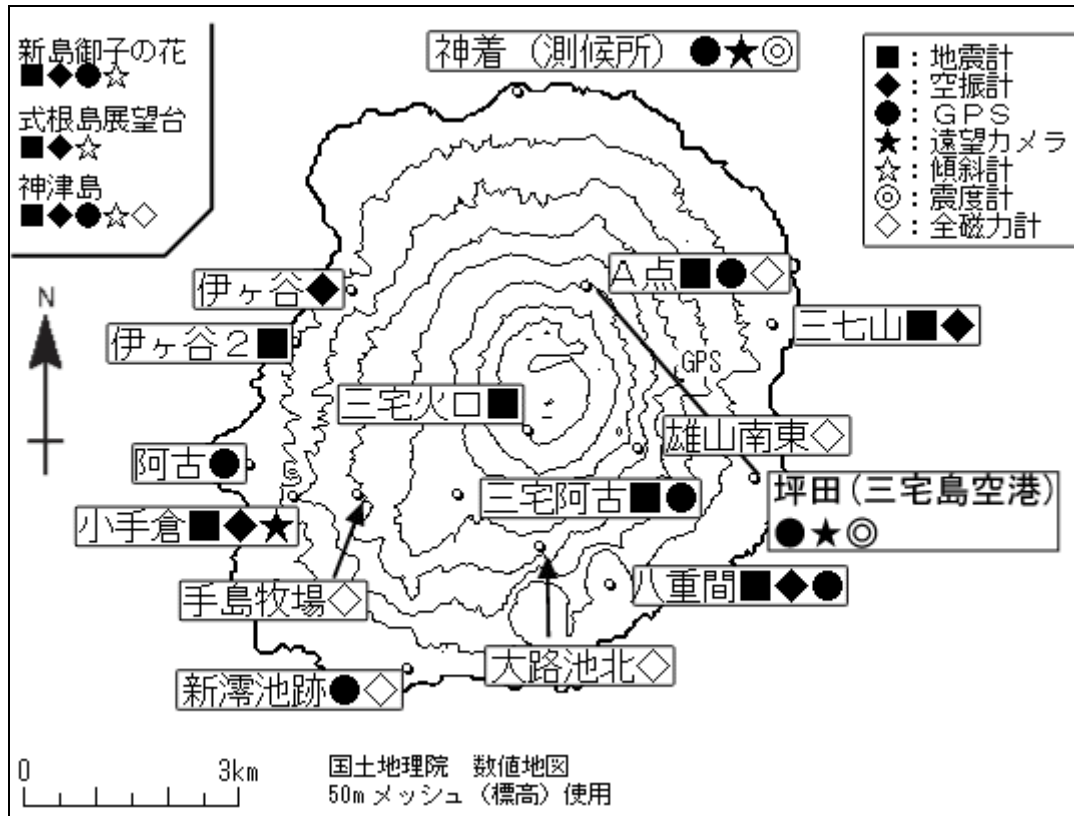


図6 三宅島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）  
GPS 基線（A点 - 坪田）は図2の に対応しています。